

バイオエヌテック ADR (BNTX)

【セクター】 バイオテクノロジー

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

2008年に設立された、バイオ医薬品を手がけるドイツの企業で、2019年10月に新規株式公開（IPO）を行いました。がんの個別化治療などに取り組んできていましたが、新型コロナの感染拡大を受け、同社が米製薬大手ファイザーと共同で開発した新型コロナ向けワクチンが大きく注目されるようになりました。同社の新型コロナワクチンはmRNA（メッセンジャーRNA）を利用したもので、mRNAは細胞内でタンパク質を合成するために必要な情報をもったRNAです。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ユーロ、EPS、1株配当、BPSはユーロ、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

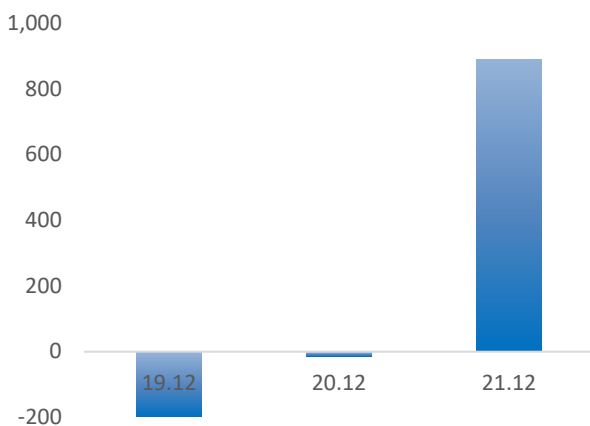
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	482	-146	-0.58	0.00	5.7	1.6	59.2
21.12期	18,977	10,293	39.63	0.00	48.2	155.2	75.1
22.1期（予）	17,446	9,429	37.98	0.00	46.6	140.3	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

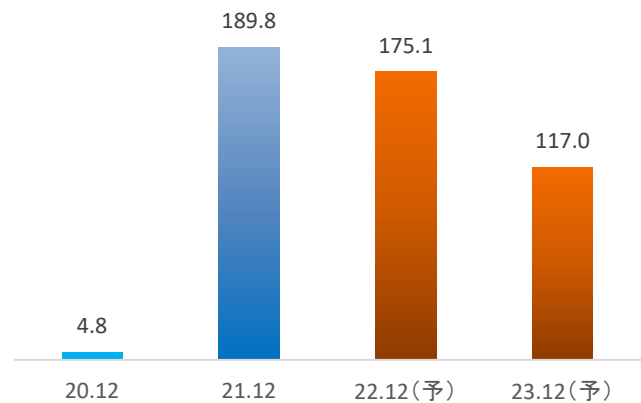
【主要指標】

営業活動によるキャッシュフロー（百万ユーロ）



（出所）ブルームバーグデータよりSBI証券作成

アナリストによる今後の売上高見通し（億ユーロ）



（出所）ブルームバーグデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

2020年になるまで実用化されているmRNAワクチンは存在しませんでした。同社と米ファイザーが共同開発した新型コロナ向けのmRNAワクチンとモデルナのmRNAワクチンが実用化されたことで、mRNAワクチンの有効性がついに実証されました。mRNAワクチンは現在「新型コロナ向けのワクチン」として注目されていますが、今後mRNAワクチンは他の感染症やがんの治療などに幅広く活用されていく可能性があります。

【見通し・注目点】

21.12期4Q（10-12月）は前年同期比で売上高が約16倍の55.3億ユーロ、調整後EPSは12.18ユーロと同約19倍で市場予想を大きく上回りました。シャピンCEOは21年は商業的にも臨床的にも記録的な一年になったとコメントしたほか、財務も良好であるとし今後2年で最大15億ドルの自社株買戻しおよび2ユーロの現金特別配当金計画を発表しました。ただし、大規模な自社株買いは株価の下支え要因となり得ますが、成長分野への投資では無くアナリストの評価は強気派と弱気派で分かれております。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。